

公表:令和6年3月 24日

職員数 6名 回収数 6件 割合 100%

事業所名:めだかくらぶ

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6				<ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこやボール投げ等、少人数で部屋を独占すると狭さを感じるが、職員の声がけで対応出来ている。動き回れる広さはある。 ・机上で遊びたい子と身体を動かしたい子が別々の部屋で活動できていると思う。 	→安全に配慮した空間作りに引き続き取り組んでいきます。
	② 職員の配置数は適切であるか	5	1			<ul style="list-style-type: none"> ・原則5人の体制で、送迎対応しても職員が残れる状況を作っている。 ・欲を言えば、時間に寄っては送迎が重なり、残る利用者のメンバーと職員の人数に不安がある時もあるので、もう1人くらい欲しい時がある。 	<p>職員は、法令で定められた配置基準を満たしており、さらに職員を加配している。</p> <p>一方で送迎の時間が重なり、1名を残し、職員が一斉に送迎に出してしまうこともあるので、送迎時間を早めに把握し、体制上ゆとりを持って対応できるようにしていきます。</p>
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	1	3	2		<ul style="list-style-type: none"> ・玄関、トイレなどの大きい段差や、仕切りのちょっとした段差がある。 ・室内でボールを使う活動をする時など、ホワイトボードが危険だと思います。玄関外のスロープが雨や雪の日に滑りやすくなって怖いと思うことがあった。 	<p>→賃貸物件のため、改修工事は難しいが、介助の必要な利用者に対しては、複数の職員で対応するなどの合理的配慮を行いたい。</p> <p>→ホワイトボードに取り扱いに関しては、所内で検討していきます。</p>
	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5				<ul style="list-style-type: none"> ・より良い支援をするため日常業務及びイベントの企画、当日の振り返りなど職員全員で意見を出している。 ・業務改善をするための振り返りをしている。 	目標設定や振り返りに、自由に意見を出し合えるような体制づくりを構築していきます。

業務改善	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6			・保護者等向けのアンケートを実施して、保護者の意向を把握している。	自己評価アンケート等で、意見や意向は把握できているので、改善が目に見えて行えるようにしていきます。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6			・昨年よりホームページ上で公開することで、利用者以外の方へも幅広く閲覧できるようにした。	引き続き、会報、ホームページのツールを活かし継続していきます。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	1	1	・第三者評価に評価を依頼はしていないが、県の実地指導を受け、業務に関して評価をしていただいた。	第三者評価機関への依頼は現在は考えてはいるが、県が実施する実地指導があれば、きちんと評価を受けていきます。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6			・サポーターズカレッジによる視聴研修を年間計画のもと実施している。また虐待防止に関する事例検討、感染症・食中毒に関するシュミレーション研修等も行っている。 ・研修内容が直接の支援に活かされることも多いので、今後も積極的に参加したいです。	引き続きサポーターズカレッジを中心に、年間研修計画を立て、定期的な研修を行っていきたい。また外部研修の機会があれば、参加していきます。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			・面談等で保護者の方から話を聞いたり、職員間で児童の様子を話し合うなどした上で作成し、客観的な分析を心がけている。	保護者や子どもだけでなく、相談支援事業所等からの情報も参考にし、課題を抽出分析していきます。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5		1	・事業所独自に作成したアセスメントシートを使用している。	新年度の改定にあわせ、5領域を網羅したアセスメントシートに変更予定です。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	2		・職員間で話し合っ、活動内容を検討し、起案書を作成する等行っている ・プログラムに関する意見も交わし合える環境にあると思います。	個々の状況や、意志を尊重できるような活動プログラムを検討していきます。また5領域を明確化し、つながりを示したプログラムを立案していきます。

⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4	2		<ul style="list-style-type: none"> ・普段できない活動プログラム(流しそうめん、ロング恵方巻き作りなど)があり、工夫されてると思います。 ・固定化しない様気をつけているが、児によってはルーティンになっているので、なかなか活動内容を広げられない。 ・できるだけ、と思っているが、学校稼働日で短時間利用の場合は、利用者による主体的な活動のみになりがちになってしまっている。 	<p>固定のプログラムの方が安心して過ごせる利用者に配慮するとともに、職員間での話し合いの場を設けるなど、新しいプログラムの発案にも努めていきます。</p> <p>また下校時間もそれぞれ違うので、利用時間の中で、どのような活動が出来るのか検討していきます。</p>
⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ、細やかに設定して支援しているか。	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・細やかまではいかないかもしれないが、長期休暇時などは普段行かない長距離のお出かけや、お弁当を持っての外出などでできていると思う。 ・長期休暇時は屋外活動、外出等を中心に普段とは違う活動ができるよう工夫している。 	<p>平日と長期休暇では、利用時間が異なるため、今後も臨機応変に対応していきます。</p>
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には集団活動が主となっていると思う。その中で、利用者によっては個別活動が盛り込まれた計画書になっている。 ・個別で行う課題、屋外活動など集団で行う活動を組み合わせて計画を立て、支援につなげている。 	<p>5領域をすべて含めた総合的な支援を提供することを基本とし、支援内容について5領域とのつながりを明確化したうえで計画書を作成していきます。</p>
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6			<ul style="list-style-type: none"> ・午前中に1回と午後からの出勤の職員が揃ったところで再度打ち合わせする時間を設けている。 ・送迎担当や、活動内容、注意することなどを話し合う。 	<p>引き続き、支援内容などの確認を行い、変更等があれば職員全体に周知することを徹底していきます。</p>

	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・終業時に全員が揃っていないため、全員での振り返りができていないため、翌日の就業前の打ち合わせて共有するように心がけてはいる。 ・その日に行った活動内容やヒヤリハットの内容を振り返り、次につなげるため職員同士で共有している。 	早帰りする職員にも気づいたことを残してもらえようツールを用意していきます。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6			<ul style="list-style-type: none"> ・毎日記録をとり検証改善につなげていると思います。 ・記録は必ず残し、気づいた点は情報交換しながら支援について話し合いをしている。 	支援の検証・改善につながるよう意識しながらの記録の残し方の工夫を行っています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・気になる利用者についてはその時々で行うことができてはいるが、モニタリング時期のみになっている見もある。定期のモニタリング時には全員のモニタリングを行うことができてはいる。 ・定期的にモニタリング及び担当者会議を開催し、計画の見直しを含め確認している。 	今後もモニタリング会議や職員会議等を通して、支援の修正や見直しを行っています。
関係機関	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか。	4		2	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者が自由な活動を行うことをメインに、職員が用意、設定した様々な活動も取り入れている。 	日本の伝統、文化を尊重し、風習や季節ごとの行事、公園などの課外活動、農作業などのバラエティに富んだ活動を組み合わせる支援をしています。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	6			<ul style="list-style-type: none"> ・管理者・児童発達支援管理責任者が出席している。 	今後も同じように対応していきます。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・学校との情報共有はこちらからの聞き取りをしないと難しい。 ・事前に下校予定をもらったり、送迎時に先生方とやり取りをしている。 	先生や学校によっては対応が異なるが、気になることがあれば、こちらから積極的に聞くようにしていきます。

や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②②	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	1	1		4	・現時点で医療的ケア児がいないためわからない。 ・受け入れる際に連絡体制を整えてほしいと思います。	今後そのような対象の利用者が出てきた場合には体制を整えていきます。	
	②③	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に務めているか。	3	1		2	・事前に情報を提供してもらい、スムーズに受け入れが出来るよう工夫をしている。	相談支援専門員との間で事前の情報提供や共有などの調整を行っていることが多いが、事業所間に関しても必要に応じて対応していきます。	
	②④	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2				4	・現在は相手側から問い合わせがあった場合に答えている。 ・情報提供が可能であれば、手厚いと思います。	必要に応じて関係機関連携加算の算定を行っています。
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	1	1	1		・同法人内に児発センターがあり、日頃から研修を共同で行ったり、利用者の状況について助言を求めるなどの連携を図っている。	引き続き、より専門的な支援が出来るよう連携を図っていきます。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	2			・地域の公園を利用した時や散歩している時に、積極的に職員や利用者が挨拶するようにしている。	職員によって受け取り方が違うようだが、日頃から地域の公園で活動をしているので、地域の子もたちとの交流も進めています。
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	4	2				・こども支援部会、相談支援部会への職員出席、災害時支援部会は、職員と利用者が出席した。	今後も、管理者や児童発達支援管理責任者が参加していきます。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5	1				・面談や日頃の送迎時に伝えるように心がけている。 ・日ごろからというとし違うかもしれないが、面談の時間以外に送迎時にも話す場合がある。	今後も丁寧な対応を心掛けます。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		1	2	3		・特別ペアレントトレーニングと言うのは行っていないが、時には対応について助言をする時がある。 ・法人として、ペアレント・トレーニングを実施するための準備を進めている。	法人内でトレーナー養成のため研修受講や保護者へのトレーニングを実施できるよう伊勢原市とも連携しながら準備をしています。

保護者への説明責任等	③①	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6			・管理者が、契約時など丁寧に書面を用いて対応している。	今後も契約時などに丁寧に行っていきます。
	③②	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	5			・相談があった時には、電話やLINE等で、対応している。 ・送迎時、LINE等で頂いた相談に対し、管理者や主任から保護者に返答、助言を行っている。	今後も、管理者や児童発達支援管理責任者が適切に対応していきます。
	③③	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	5			・令和5年8月に「親子バーベキュー」を開催し、保護者間、きょうだい児に対する支援を行った。 ・今年度はバーベキューのみだったが、多くの方に参加していただき、その中で少しは横のつながりもできたのでは、と思います。	保護者交流会の開催などで、より多くの保護者の参加、交流ができる機会を設定できるようにします。
	③④	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6			・苦情には、速やかに適切な対応をするようにしていると思います。 ・苦情解決のマニュアルは整備されてある。連絡先も提示している。苦情があれば、迅速に対応している。	今後も、迅速な対応ができるようにしていきます。
	③⑤	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6			・月に一度の『めだか通信』の発行。ホームページへの活動の写真的アップを行っている。 ・毎月のめだか通信を発行して、情報発信している。またLINE等で、イベントの案内、悪天候時の連絡体制など、事前に発信している。	毎月のめだか通信の発行、ホームページでの活動写真的アップ、またイベントや悪天候時の連絡など、引き続き情報発信を行っていきます。

	③⑤ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	6				・個人情報使用同意書を取り、必要最小限の使用にとどめている。記録等のPCソフトは入力時個人パスワードを設定。ホームページ上のギャラリーは同意をとったうえで、パスワードを設定し、アクセスしてもらっている。	今後も、契約時に説明し、同意をいただき、保管には細心の注意を払っていきます。
	③⑥ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5	1			・配慮が必要な子どもや保護者に対して、できるだけわかりやすい説明を行っている。	今後も引き続き配慮をしていきます。
	③⑦ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		1	2	3	・ザリガニ釣りなどは、地域住民の協力を得て、釣る場所をお借りした。 ・流しそうめんのイベントには、地元住民の協力を得た。 ・焼き芋のイベントでは、地域住民の方にもお声かけし、食べて頂いた。	不定期のイベントでの関わりなどで、職員の認識が薄い結果となったが、引き続き利用者の活動や体験を、地域の方と協力しながら取り組んでいきます。
非常時等の対応	③⑧ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	4	2			・各マニュアルの整備、BCP(業務継続計画)の策定を行ったが、保護者に対して十分な周知が出来ていないと感じる。 ・マニュアルは作成しつつでも回覧できるように置いてある。	保護者に対して簡略化したわかりやすい内容のものを周知していきます。
	③⑨ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6				・1ヶ月に1回、色々な災害を想定した避難訓練を行っている。広域避難場所まで行く訓練もした。 ・毎月、曜日を変え、地震、火事、水害を想定した訓練を実施し、広域避難所へ歩いていく訓練も行なっています。	警察や消防の力も借りて、法人内で実施している防犯やAEDなどの研修に受講していきます。
	④⑩ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6				・虐待に関連する事例検討の研修の機会を設けたり、法人の他の事業所で行われる研修に参加したりしている。	義務化されていますので、年間計画を立て、研修を行っていきます。

心	④①	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				・万が一実施する際は、委員会を開催し、協議し、保護者に説明、同意を得た上で、計画書に記載して実施することになっている。身体拘束等の適正化のための指針、身体拘束対応マニュアルを整備している。	身体拘束はしないことを原則としつつ、緊急やむを得ず身体拘束を行う場合には、保護者、学校などあらゆる関係機関から意見を聞き、事前に説明と同意の上、計画書への記載をした上で実施します。
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、指示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	1	1		4	・食物アレルギーについて聞き取りはしており、現在の利用者でそこまでの配慮の必要な利用者はいない。	現在は該当の利用者はいませんが、対象となる子どもがいる場合、保護者や医療機関との情報共有や連携を行い、対応していきます。
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5	1			・事例集は無いが、毎月の職員会議の議事録にはその月に起きたすべてのヒヤリハットを添付し、回覧している。	事業所内で起きたヒヤリハットをまとめ、事例集の作成を行います。

～自由記載欄～

まだまだ取り組むべき課題があると感じた。しかし、全てを網羅することは大変。より良い支援をし、より良い事業所にするために、また利用者やそのご家族からの満足度と信頼を得ていくために、まずは職員同士の風通しを良くし、それぞれが前向きに支援をしていかれたらいいのではと思います。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。